

岡山県感染症週報 2018年 第33週 (8月13日～8月19日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2018年 第33週 (8/13～8/19) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第31週	2類感染症	結核	1名 (30代 女)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O157: 30代 男)
	5類感染症	梅毒	2名 (20代 男 1名、40代 女 1名)
第32週	2類感染症	結核	2名 (50代 男 1名、90代 女 1名)
第33週	2類感染症	結核	2名 (小学生 男 1名、40代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O157: 中学生 女 1名、60代 男 1名)
	4類感染症	日本紅斑熱	1名 (60代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (50代 男)
		梅毒	3名 (20代 女 1名、40代 男 1名、50代 男 1名)
		百日咳	3名 (小学生 男 1名・女 2名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 感染性胃腸炎は、県全体で 260 名 (定点あたり 5.69 → 4.81 人) の報告があり、前週から減少しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 63 名 (定点あたり 0.94 → 1.17 人) の報告があり、前週からわずかに増加しました。

【第34週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 3名 (O26: 幼児 男 1名・女 1名、O157: 小学生 男 1名) の発生がありました。(8月21、22日)

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2018年第33週まで(～8/19)の累計報告数は34名です。今後も発生がづく可能性があることから、岡山県は「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
また、[感染性胃腸炎](#)は、県全体で260名(定点あたり5.69→4.81人)の報告があり、前週から減少しました。地域別では、美作地域(6.17人)、岡山市(6.07人)、倉敷市(5.91人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。高温多湿の今の時期は、食中毒病原体による感染性胃腸炎も増加します。感染予防の方法については、コラムをご覧ください。
2. [日本紅斑熱](#)は、第33週に1名の報告があり、2018年の累計報告数は5名となりました。この感染症は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染します。全国や岡山県の発生状況など詳しくは、[今週の注目感染症①](#)をご覧ください。
3. [レジオネラ症](#)は、第33週までで48名の報告がありました。レジオネラ症の報告は、全国的にも近年増加傾向にあります。岡山県では2013年から横ばい傾向でしたが、2018年第33週までで2017年の1年間の累計報告数(30名)をすでに超えています。レジオネラ症の詳細については、[今週の注目感染症②](#)をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、第33週までで112名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年(102名)と同様、多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。梅毒の詳細は、コラムをご覧ください。
5. [RSウイルス感染症](#)は、県全体で63名(定点あたり0.94→1.17人)の報告があり、前週からわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、倉敷市(2.45人)、美作地域(1.50人)、岡山市(1.21人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

6. [百日咳](#)は、第 33 週までで 106 名の報告がありました。年代別では小学生（46 名）、6 歳以下の乳幼児（18 名）、中学生（16 名）が多くなっています。地域別では、倉敷市および備中地域（31 名）、岡山市（30 名）の順に報告数が多くなっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		★★★★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		★
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		

【記号の説明】 前週からの推移：
：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：大幅な減少
：減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

★日本紅斑熱

日本紅斑熱は、リケッチアの一種、リケッチア・ジャポニカ（日本名：日本紅斑熱リケッチア）による熱性・発しん性の感染症です。

マダニ（ヤマアラシチマダニ、フタトゲチマダニ、ヤマトマダニなど）が媒介します。初夏から初冬にかけて多く発生しますが、真冬を除いてほぼ1年中感染する可能性があります。近年、患者数は増加傾向にあり、2017年には全国で337名の患者が報告されています。岡山県では、2009年10月に初めての患者が発生しました。例年3名程度の発生でしたが、昨年は7名に増加しました。今年は8月17日までで5名の報告がありました。

症状は咬まれてから2～8日後に、高熱と発しんで発症します。発熱・マダニの刺し口・発しんが3大特徴であり、ほとんどの症例にみられます。一般的に予後は良好ですが、適切な治療が行われなかった場合は重症化し、死に至ることもあります。

診断は臨床症状とともに、痂皮（刺し口のかさぶた）・発しん部位の皮膚・末梢血中などからのリケッチア遺伝子の検出または抗体の検出で行われます。

治療はテトラサイクリン系抗菌薬が有効です。加えて、ニューキノロン系抗菌薬を併用することもあります。

マダニに咬まれないように予防することが極めて大切です。詳細はコラムをご参照ください。

早期診断、早期治療が重要です。もしもと思ったときには、すぐに医療機関を受診しましょう。

※その他のダニ媒介感染症については[岡山県感染症情報センターのホームページ](#)をご覧ください。

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外で活動する場合、以下のことに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。

これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつか虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から秋（3～11月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の
フタトゲチマダニ♀



吸血後

画像：岡山県環境保健センター

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合（2、3日以内）は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合（数日以降）は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [日本紅斑熱とは（国立感染症研究所）](#)

⇒ [マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

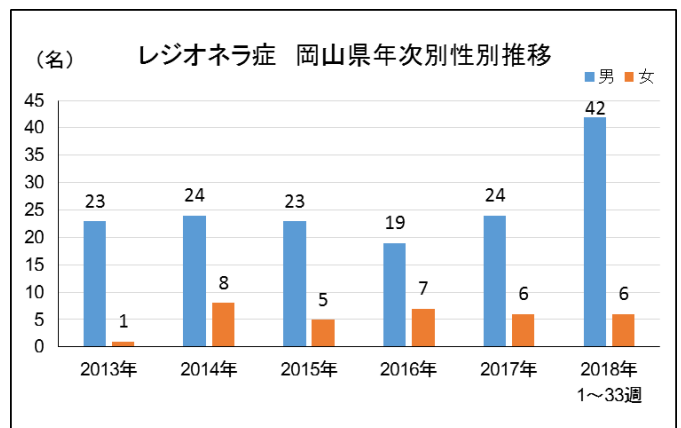
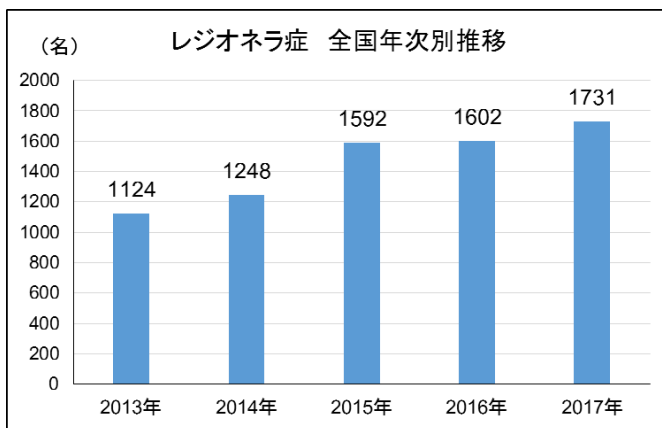
今週の注目感染症②

★レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌が原因で起こる感染症です。レジオネラ属菌は、本来土壌や水環境などの自然環境中に存在している細菌ですが、冷却塔や循環式浴槽を用いている浴場などの人工環境でも、主にアメーバなどを宿主として増殖します。エアロゾル（霧状となった水滴）に含まれる菌を吸引することで感染を起こします。特に糖尿病、悪性腫瘍、人工透析を受けている人や、大酒家などでは肺炎を起こす危険性が高く、注意が必要です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。

[発生状況]

近年、患者数は全国的に増加傾向にあります。岡山県では2017年までは患者数は横ばいでしたが、2018年は第33週までで48名と、2017年の総計30名より多く報告されています。男女別では、男性の患者が多く、2013年から2018年第33週までの年齢別類型割合では、50歳代以上で92.0%を占めており、中高年の患者が多く報告されています。



[症状・経過]

レジオネラ肺炎が重篤で重要です。また、突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まり、一過性で治癒するポンティアック熱という病型もあります。

レジオネラ肺炎は、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、乾いた咳（2～3日後に膿性～赤褐色の痰の咯出）、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が見られるようになります。中枢神経系の症状（傾眠、昏睡、幻覚、四肢の振せんなど）や下痢が見られるのも特徴で、早く進行し、重症化することがあります。

[検査・治療]

尿中抗原の市販キットによる検出がよく普及しています。治療は、ニューキノロン系の抗菌薬が第一選択となります。早期に有効な抗菌薬での治療を行わないと死に至ることもまれではありません。

※くわしくはこちらをご覧ください ⇒ [「レジオネラ症とは」\(国立感染症研究所\)](#)

レジオネラ症予防にはマスク着用を！

がれきや泥の撤去作業などで舞い上がった土ほこりやエアロゾルを吸い込むことにより、レジオネラ症に感染するリスクがあります。適宜マスクを着用するなどし、土ほこりやエアロゾルを吸い込まないように気をつけましょう。

水害時の感染症対策について

水害による浸水の後は、感染症発生の恐れがあります！

平成 30 年 7 月に発生した豪雨災害により被害を受けられたみなさまに、心からお見舞いを申し上げます。

災害発生時には、災害に特異的な感染症（破傷風等）や、避難生活や衛生環境により発生する感染症（呼吸器・消化器感染症・ダニなどを介する動物由来感染症等）への予防対策が必要ですので、次のことを守りましょう。

1. 食物は生で食べないようにして、必ず加熱して食べましょう。
 - 汚水に接触した食品は思い切って捨てましょう。
 - 長時間停電した地域では、冷蔵庫に入っていた食品（特に要冷蔵食品や要冷凍食品）は使用せずに廃棄するようになしてください。
 - 調理器具については、よく洗浄し、煮沸あるいは熱湯消毒をしてから使いましょう。食器については、台所用漂白剤を使用しても良いでしょう。
2. 食事の前、調理の前、用便後は必ず手を洗いましょう。
3. 生水は絶対に飲まないようにしましょう。
 - 浸水した井戸については、水質検査により安全が確認されるまでは使用しないでください。
4. 症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。
 - お腹や身体の具合の悪い人は（発熱、下痢、発しんなど）、早急に医師に診てもらいましょう。

（なお、ダニの対策についてはこの週報のコラムを合わせてご覧ください。）

詳細は、以下のホームページをご覧ください。

[水害時の感染症対策と消毒方法、健康対策について（岡山県健康推進課）](#)

[平成 30 年 7 月豪雨における感染症予防について（日本環境感染学会）](#)

[清掃作業をされる方へ 清掃作業時に注意してください（厚生労働省）](#)



梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

依然として増えている・・・

梅毒（性感染症）に

気をつけましょう！

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています。（第33週まで：今年112名、昨年102名）

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018年4月から6月でみると、人口100万人当たりの届出が、大阪府、東京都に次ぎ全国3位（2018年1月から3月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています。

●男女とも早期顕症梅毒が多く、女性では無症候も多くみられます

病型に着目すると、男性では早期顕症Ⅰ期が多く、届出の半数程度を占めています。一方、女性では早期顕症Ⅱ期および無症候で全体の7割以上を占めています。いずれも感染性の高い時期です。

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたしますが、進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障害をもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

<病型>

早期顕症Ⅰ期：感染後3週間後から病原体侵入部位に硬結（しこり）を生じ次第に潰瘍化し、両そ径部のリンパ節が腫脹します。2～3週間で自然に消退します。

早期顕症Ⅱ期：Ⅰ期消退後3か月後で、バラしん（発しん）、膿胞、外陰部のコンジローマ（扁平腫瘤）、脱毛など3年程度様々な症状を繰り返しながら進行し、晩期梅毒に進んでいきます。

無症候期：Ⅰ期とⅡ期の間やⅡ期の発しん消退後など、梅毒血清反応が陽性ですが、臨床症状は認められない期間です。診断・治療の遅れにつながることがあります。

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

高温多湿になる今の時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。次の3原則を心がけ、予防に努めましょう。

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、用便後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
(食肉の生食は避けましょう。)



[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!（岡山県感染症情報センター）](#)

風しんについて（情報提供）

現在、関東地方（千葉県・東京都など）で風しんの患者報告数が例年と比較して大幅に増加しています。この時期は多くの人の往来が見込まれることから、今後、全国的に感染が拡大する可能性があります。

特に、妊婦は風しんに罹患すると出生児に先天性風疹症候群を発症することがあります。

風しんはワクチンにより予防可能です。妊婦を守る観点から、特に妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去予防接種を受けていない方や、風しんの罹患が明らかでない方等は、予防接種についてご検討ください。

また、この度報告数が増加した関東地方の風しん患者の多くが30代～50代の男性でした。この年代の男性は、抗体価が低い方が多いことから、風しんの予防接種について、合わせてご検討ください。

[風疹とは（国立感染症研究所）](#)

[風しんについて（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2018年 33週(定点把握)

(2018/08/13~2018/08/19)

2018年8月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	63	1.17	17	1.21	27	2.45	5	0.50	4	0.57	1	0.25	-	-	9	1.50
咽頭結膜熱	23	0.43	5	0.36	-	-	7	0.70	2	0.29	9	2.25	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	0.93	22	1.57	10	0.91	9	0.90	-	-	1	0.25	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	260	4.81	85	6.07	65	5.91	46	4.60	7	1.00	17	4.25	3	1.50	37	6.17
水痘	8	0.15	-	-	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	11	0.20	1	0.07	4	0.36	-	-	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	5	0.09	-	-	4	0.36	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	7	0.50	2	0.18	4	0.40	3	0.43	1	0.25	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	34	0.63	5	0.36	14	1.27	1	0.10	6	0.86	2	0.50	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	8	0.15	-	-	3	0.27	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	5	1.00	2	0.50	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 33週(発生レベル設定疾患)

(2018/08/13~2018/08/19)

2018年8月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	23	0.43	5	0.36	-	-	7	0.70	2	0.29	9	2.25	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	0.93	22	1.57	10	0.91	9	0.90	-	-	1	0.25	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	260	4.81	85	6.07	65	5.91	46	4.60	7	1.00	17	4.25	3	1.50	37	6.17
水痘	8	0.15	-	-	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	11	0.20	1	0.07	4	0.36	-	-	2	0.29	-	-	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	5	0.09	-	-	4	0.36	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	34	0.63	5	0.36	14	1.27	1	0.10	6	0.86	2	0.50	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	8	0.15	-	-	3	0.27	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	5	1.00	2	0.50	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第33週 2018/08/13～2018/08/19)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	63	17	26	15	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	23	-	2	3	3	2	1	2	2	2	2	1	3	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	-	-	6	4	3	9	9	6	3	2	1	5	-
感染性胃腸炎	260	3	27	44	30	29	23	16	17	11	10	8	17	3
水痘	8	-	-	-	-	2	1	1	1	-	2	-	1	-
手足口病	11	-	-	1	2	2	1	1	2	-	2	-	-	-
伝染性紅斑	5	-	-	-	-	1	-	2	1	-	1	-	-	-
突発性発疹	19	1	6	9	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	34	-	5	8	9	5	3	2	1	-	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	3	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	-	1	1	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

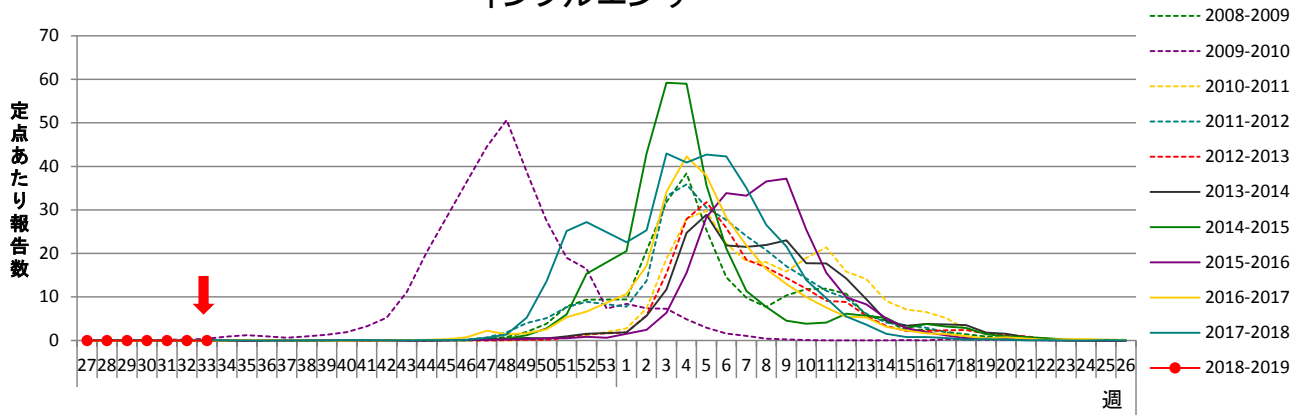
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

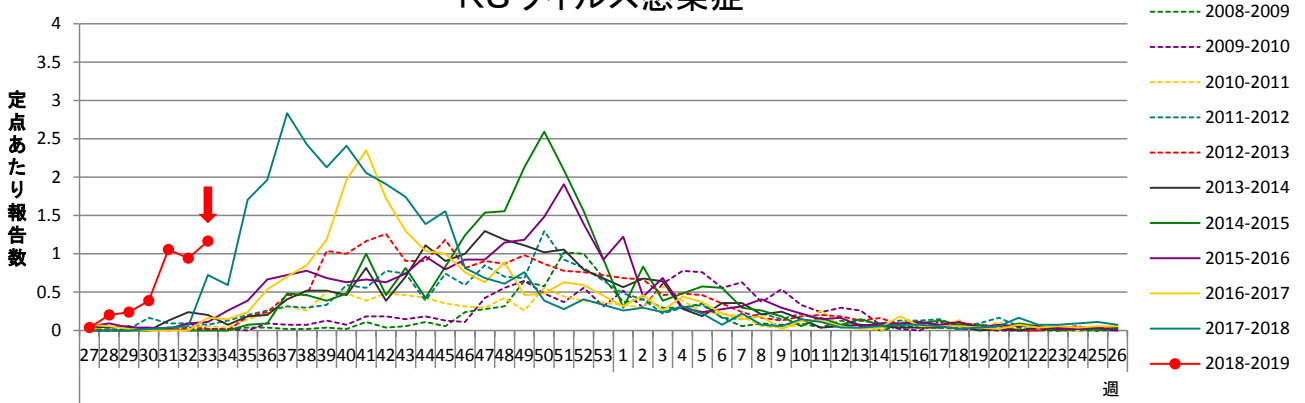
2018年 33週

分類	疾病名	2018			疾病名	2018			疾病名	2018		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	202	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	2	34	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	1	5	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	48	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	13	22	ウイルス性肝炎	-	4	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	12
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	-	急性脳炎	-	4	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	13	9	後天性免疫不全症候群	-	11	22
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	32	36	水痘(入院例に限る。)	-	2	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		3	112	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	1	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	3	106	-
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

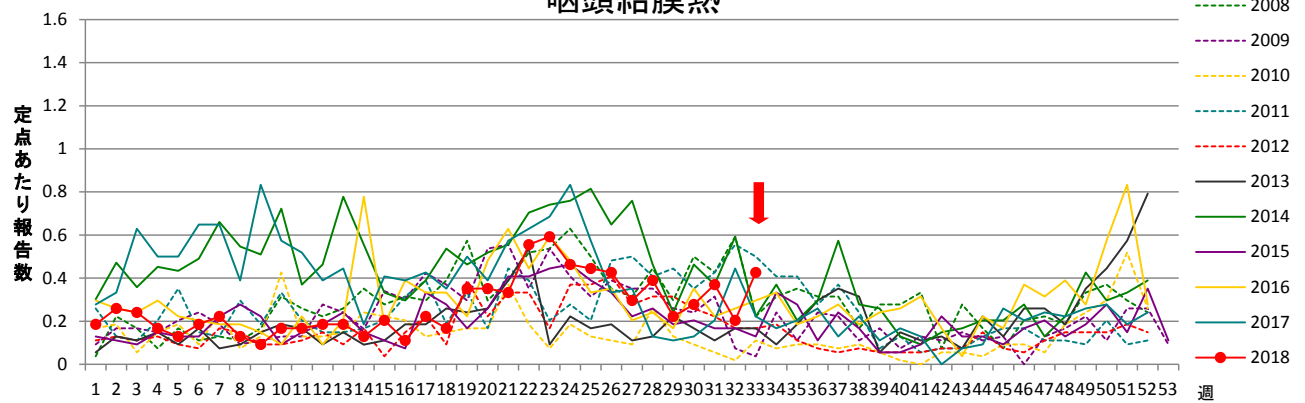
インフルエンザ



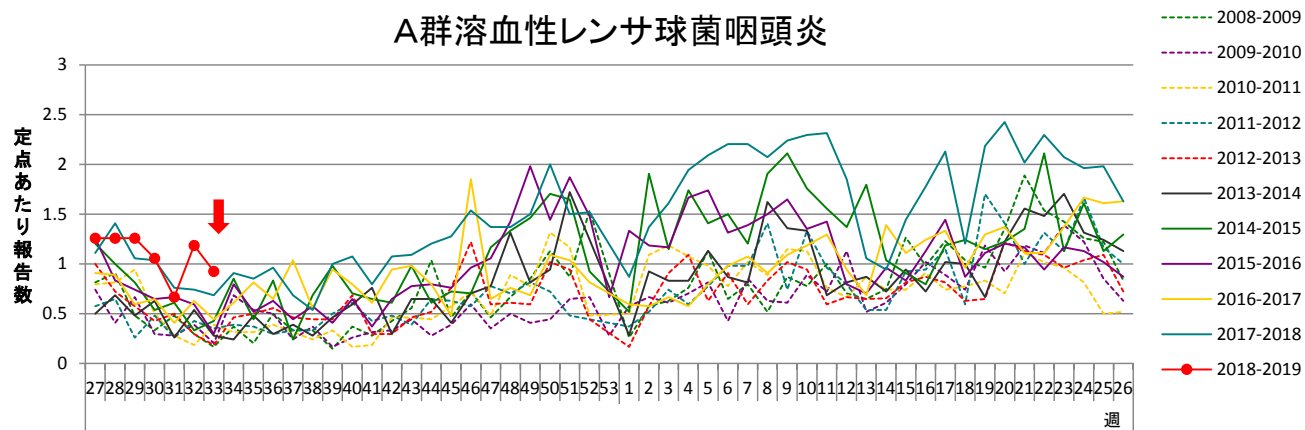
RSウイルス感染症



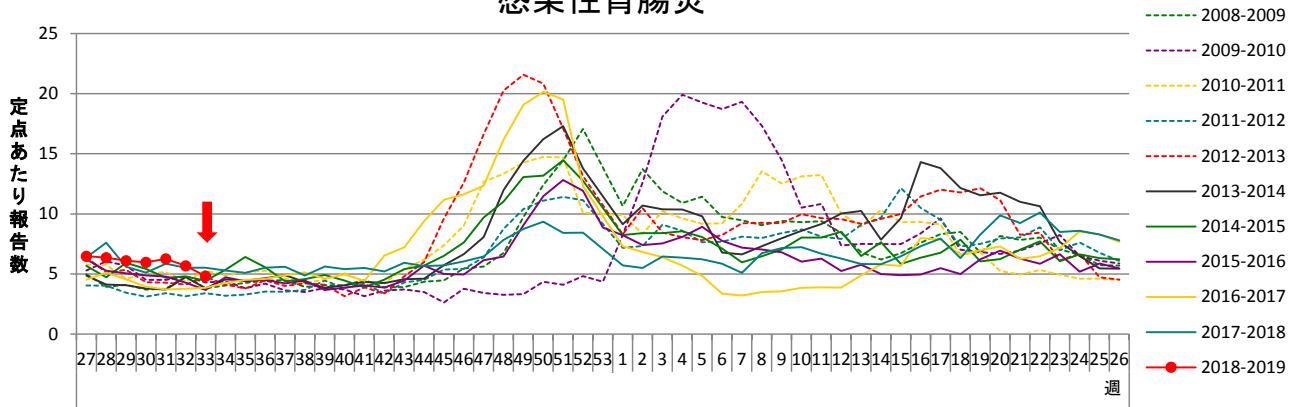
咽頭結膜熱



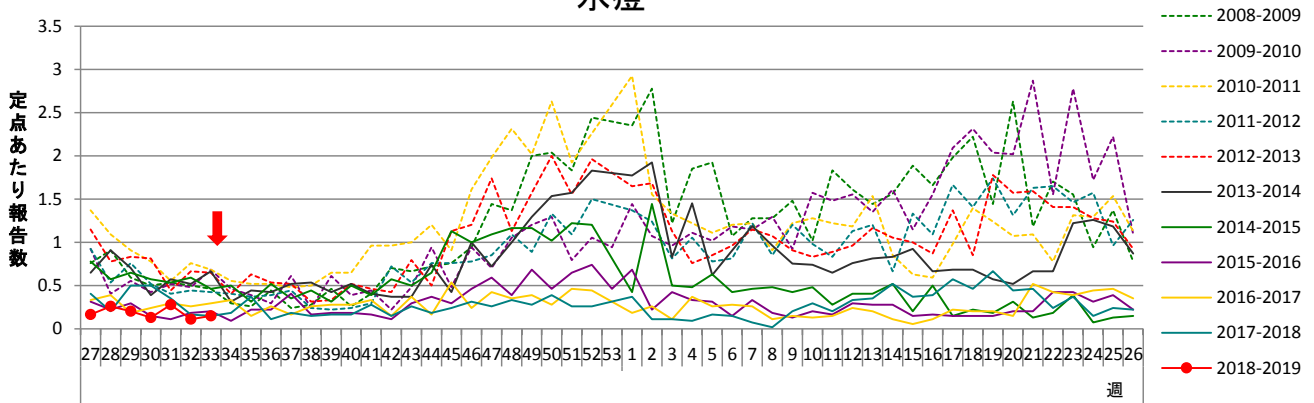
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



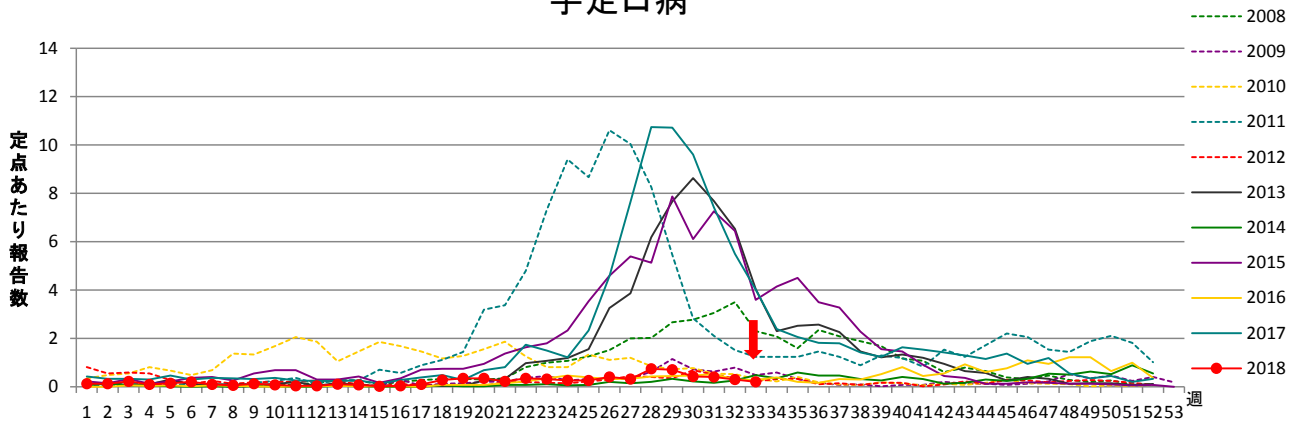
感染性胃腸炎



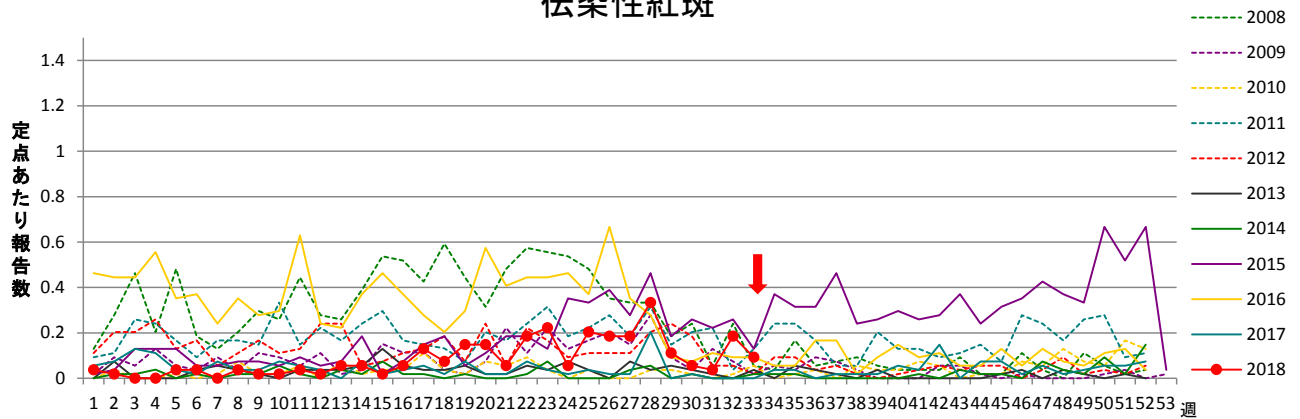
水痘



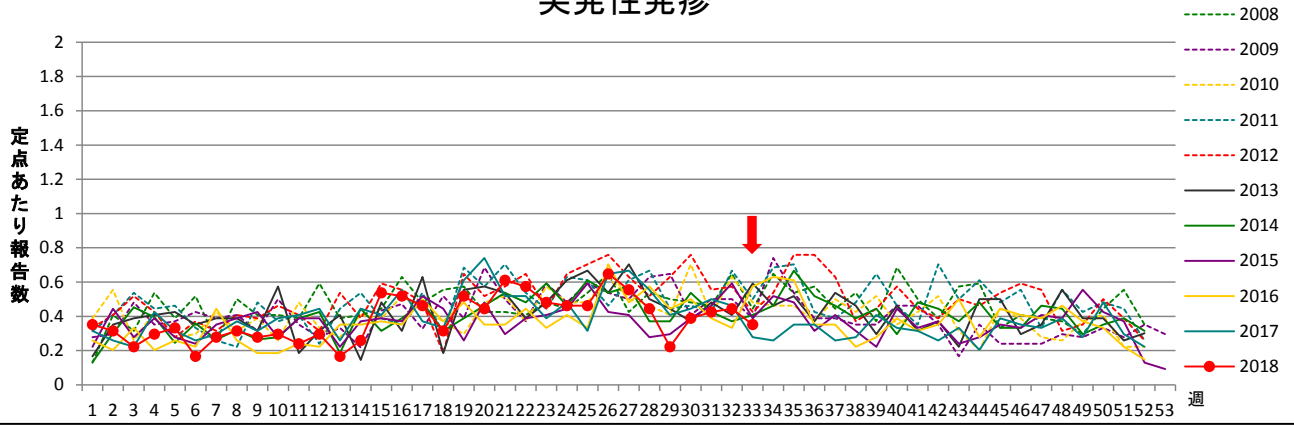
手足口病



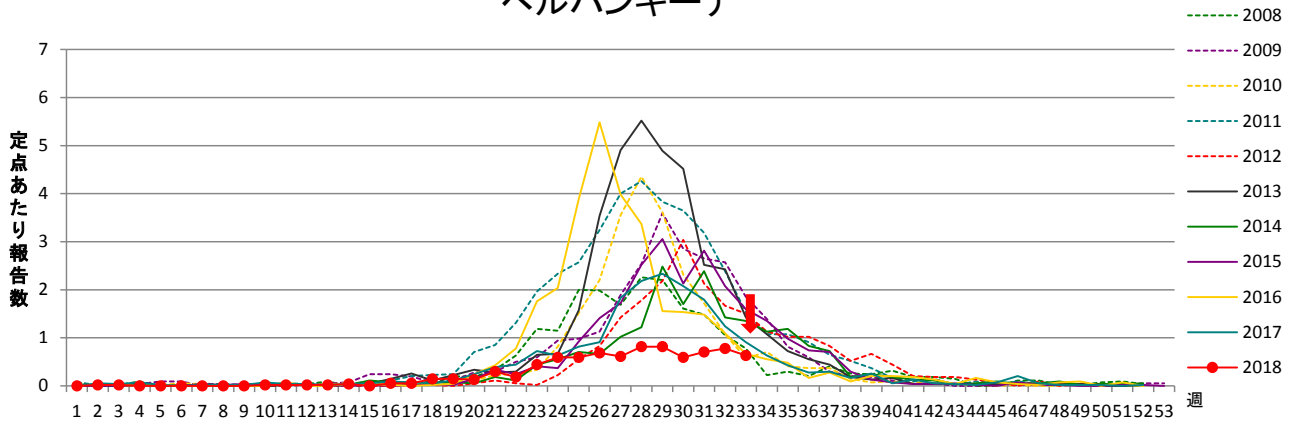
伝染性紅斑



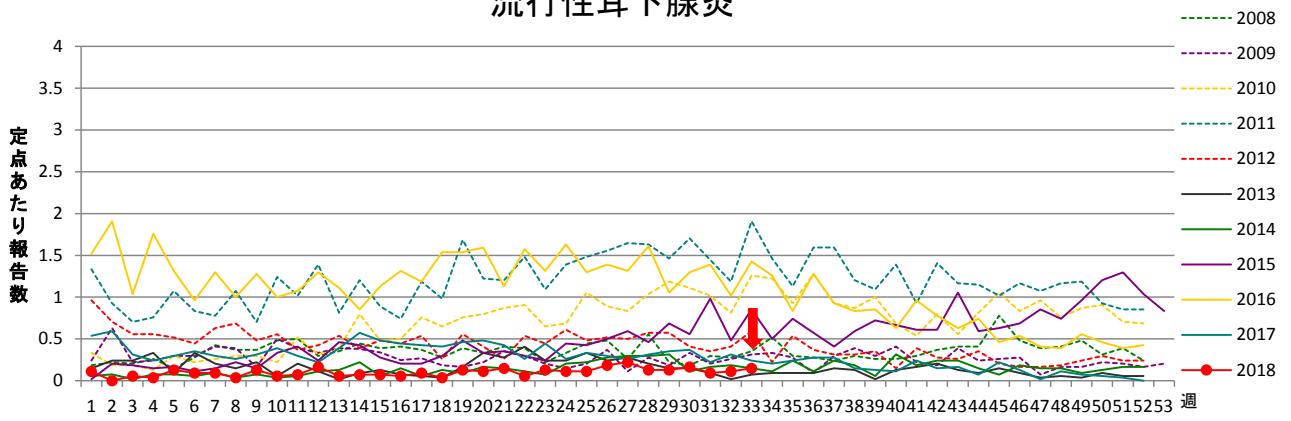
突発性発疹



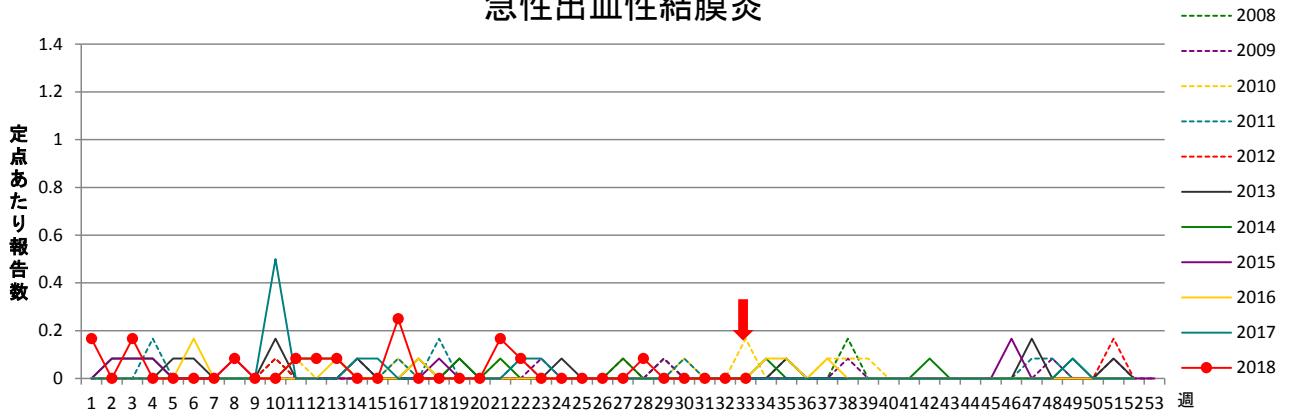
ヘルパンギーナ



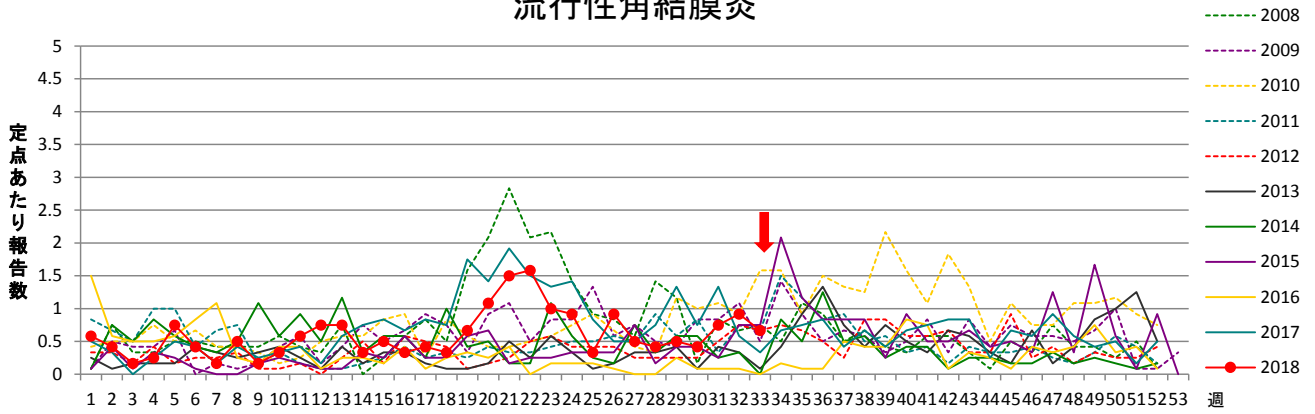
流行性耳下腺炎



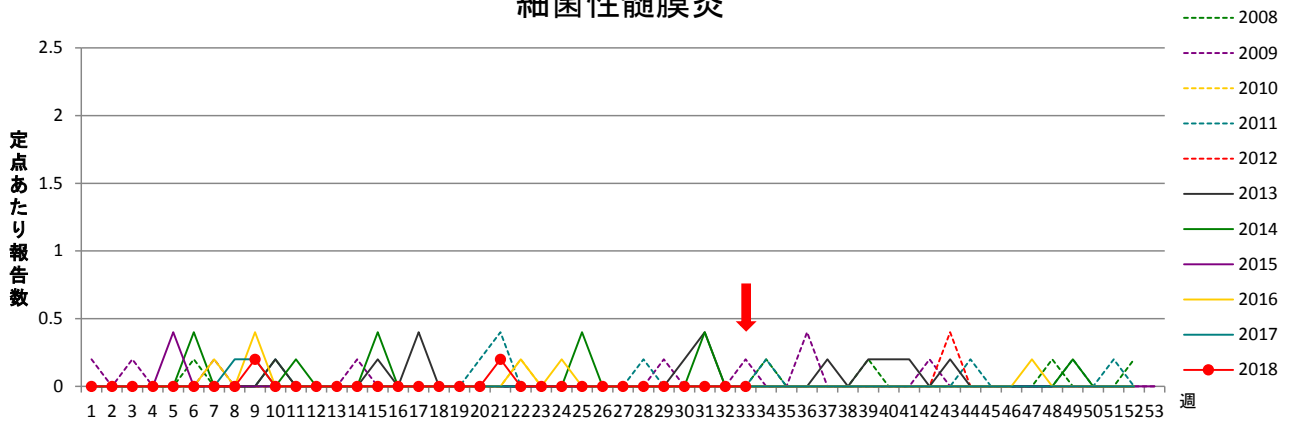
急性出血性結膜炎



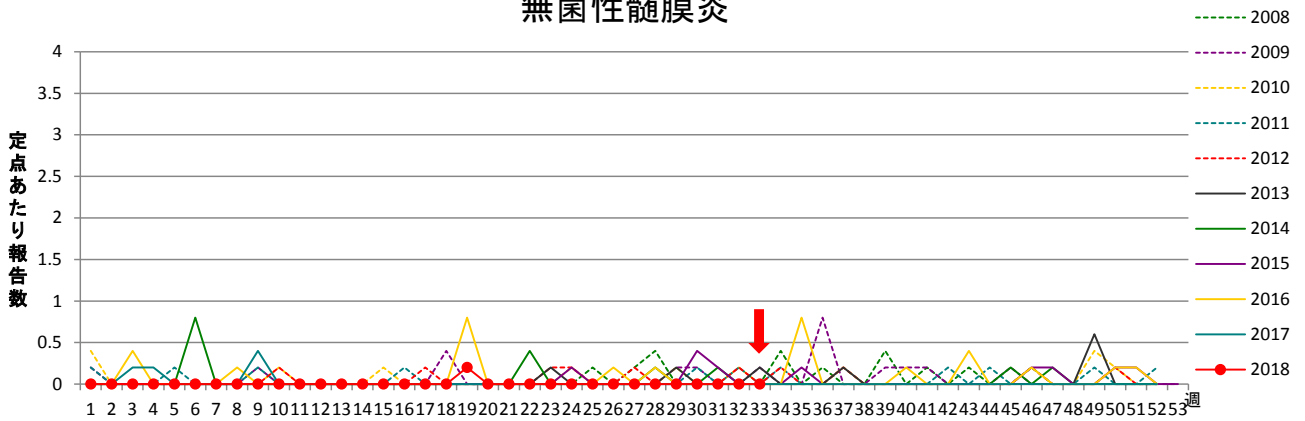
流行性角結膜炎



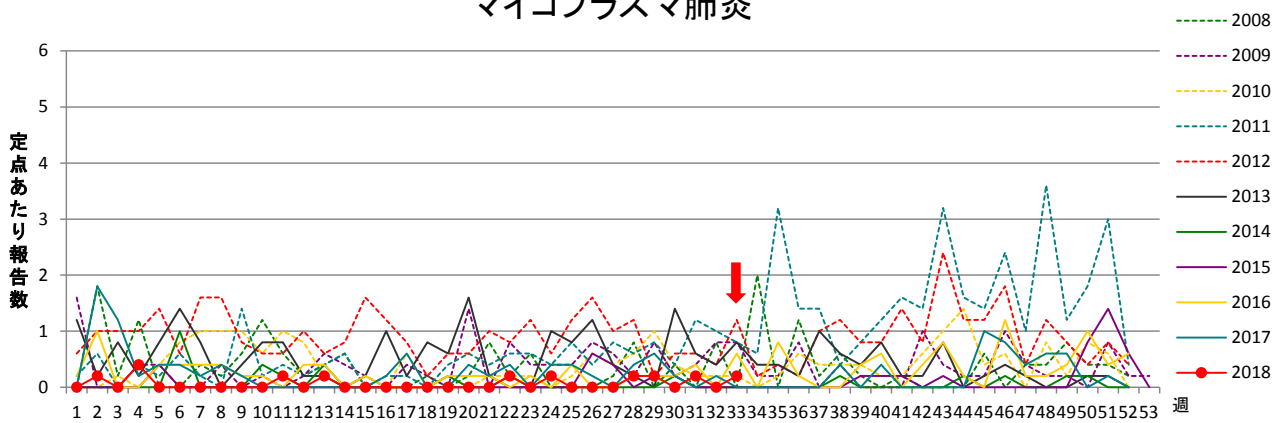
細菌性髄膜炎



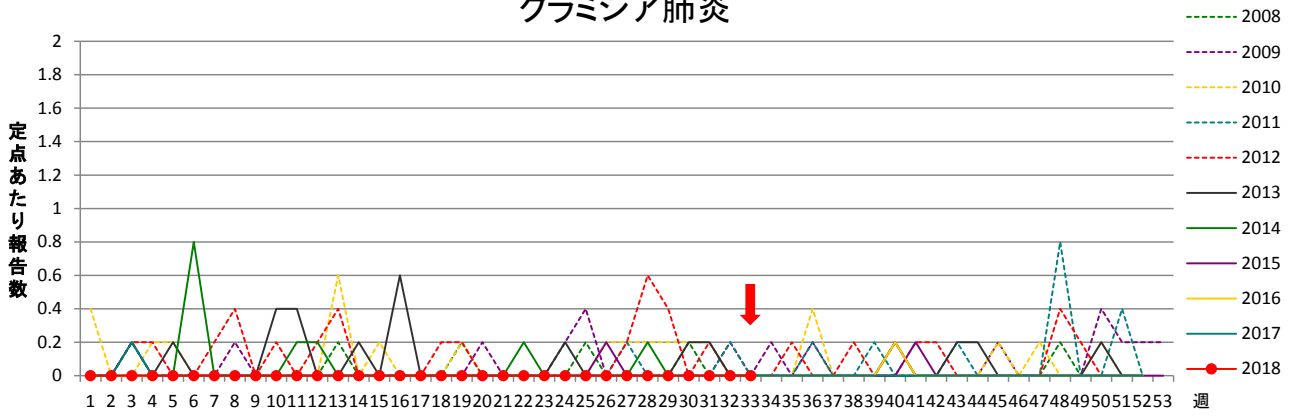
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

